

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 58

「ひと・里・森がふれあい ともに輝く
元気なまち」

愛媛県 久万高原町長

たまみず としきよ
玉水 寿清



久万高原町は、愛媛県のほぼ中央、石鎚山の南に位置し、松山 IC から国道 33 号を高知方面に車で約 35 分走ると町の中心部に着きます。石鎚山を中心とする面河渓谷や四国カルスト、高原に育まれた森林、清流など、水と緑が織りなす美しい自然にあふれた町で、四国の軽井沢とも称されています。

町内を流れる仁淀川支流の久万川、面河川流域には、水辺の観光スポットが数多くあります。県指定史跡「仰西渠」、国指定名勝「面河溪」、面河ダム公園、県指定名勝「御三戸嶽」、国指定特別天然記念物「八釜の甌穴郡」など、雄大な自然と清らかな水の流れはすばらしいものがあります。河川は仁淀川支流で、久万高原町から高知県内を流れ太平洋に注いでおり、この仁淀川の透明度は日本一とも言われています。

水にまつわる話として、「仰西渠」は、江戸時代元禄の頃に、水不足による農民の苦しみを見かねた山之内仰西が、私財を投じて設計、掘削した農業用水路です。堅固岩盤に阻まれ、困難な工事のすえ、長さ 57m、幅 1.2m、深さ 1.5m の水路を完成させました。現在も当時のまま使用されており、その恩恵を受けています。

また、「赤蔵ヶ池」には、源三位頼政が池から出た怪鳥又エを矢竹で退治したことが古文書に記されているなど、伝説も数多くあります。

しかし、豊かな緑につつまれた美しい河川も、大雨が降れば豹変します。平成 16、17 年度には、時間雨量 30mm を超える降雨が長時間続くなど、想定外の記録的な降雨により河川が氾濫し、2 年間で被害総額約 960 百万円の河川災害を受けました。

最近の災害は、管理の行き届いていない森林の保水力低下が原因の一つとも言われています。久万高原町では、平成 14 年度から荒廃する森林を再生し、持続可能な森林の管理経営と健全林分の育成に努め、水源かん養や環境保全等、公益的機能の増進を図る目的で森林再生支援事業（間伐）を実施し、平成 17 年度末までに 2,925ha の森林整備に努めています。このことが、河川環境の保全にもつながるのではないのでしょうか。

今後も、最上流にある町としての責任を自覚し、豊かな緑、美しい河川を守り、水の恩恵を未来に繋げることが重要で、「ひと・里・森がふれあい ともに輝く 元気なまち」をキャッチフレーズに町づくりを推進していきたいと考えています。



県指定名勝「御三戸嶽」



県指定史跡「仰西渠」



整備された森林



国指定名勝「面河溪」五色河原